Simple Serial Monitor [SSMON Ver.1.2]

for SSM-2322
for SSM-2509
for SSM-4823

取扱説明書

エムシーアイエンジニアリング株式会社
〒182-0024 東京都調布市布田１－４４－３
TEL 0424-87-9564　FAX 0424-82-9138

第２版　2003年07月22日

［1］概要

Simple Serial Monitor「SSMON」は各種の電子機器で汎用的に使用されているシリアル伝送（RS232C）を手軽にモニタし、装置やシステムのデバッグ・解析の補助として使用することを目的としています。

モニタケーブルを装置間、およびパソコンの RS232Cポートに接続し、モニタソフトを起動し、ボーレートなどを設定するだけで装置間の通信データをパソコン画面でモニタすることができます。

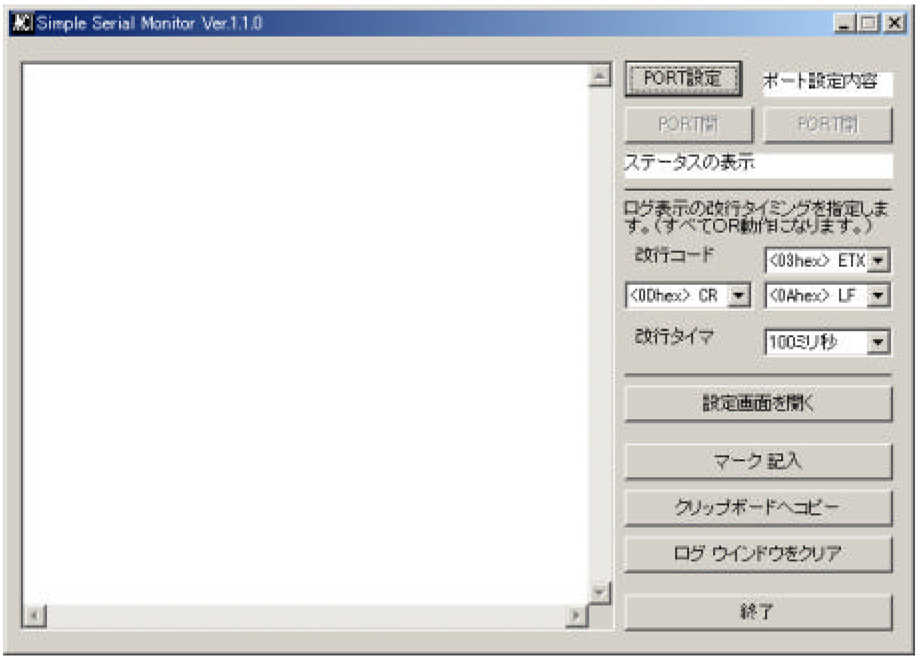
本ソフトはWindows98/2000/XPにおいて動作します。

［2］ケーブルの接続方法

モニタケーブルの説明書に従って下さい。

［3］モニタソフトの使用方法

モニタソフトを起動すると下図のようなウィンドウが表示されます。



①
パソコンのシリアルポートの設定を行います。

②
モニタデータを表示する際の改行コードを指します。

④設定画面を開きます

③
ログウィンドウの内容を加工します。

モニタソフトを終了します。

①：［PORT設定］ボタンをクリックすると
別ウィンドウ（右図参照）が開き、
COMポートの選択　（COM1～8）
ボーレートの選択（110～256000bps）
データ長の選択　（4～8bits）
パリティの選択　（None,Odd,Even）
ストップビット長の選択（1～2）
を行うことができます。

［PORT開］ボタンをクリックすると
選択設定された条件でシリアルポートを
オープンします。

［PORT閉］ボタンをクリックすると
シリアルポートをクローズします。



②：左側のログ表示ウィンドウに表示するモニタデータをデータ列単位で改行表示するためにモニタする装置間で
デリミタとして使用されているコードを選択します。
３種類のコードが選択可能で、３種の中のいずれかを受信すると改行します。

また、改行タイマで時間を選択すると改行コードを受信しなくても最後の受信データから選択した時間が
経過すると改行します。

③：注目すべきデータがモニタされた時、［マーク記入］ボタンをクリックすると「------------------」を
素早く記入し、後での解析の目印となります。

［クリップボードへコピー］ボタンをクリックすると表示されているログウィンドウの内容をクリップボードへ
コピーします。
コピーされたデータは別のテキストエディタなどで編集・ファイル保存を行うことができます。

［ログウィンドウをクリア］ボタンをクリックするとログウィンドウの内容をクリアします。

④：［設定画面を開く］ボタンを
クリックすると別ウィンドウ
（下図参照）が開き、トリガ設定を
行うことができます。



ログ開始条件
ポートを開いたら開始　　　　　：メイン画面の［PORT開］ボタンをクリックし、ポートがオープンされたら
ログを開始します。
右のASCII文字を受信したら開始：右のテキストエリアに検出したい文字列を入力します。
有効な文字数は１０文字以下です。
ポートがオープンされて受信データ中に検出文字列を発見したらログを
開始します。
右のHEXコードを受信したら開始：右のテキストエリアに検出したいHEXコードをカンマ(,)で区切って入力
します。有効なコード数は１０バイト以下です。
ポートがオープンされて受信データ中に検出HEXコード列を発見したら
ログを開始します。

ログ停止条件
ポートを閉じたら停止　　　　　：メイン画面の［PORT閉］ボタンをクリックし、ポートがクローズされたら
ログを停止します。
右のASCII文字を受信したら停止：右のテキストエリアに検出したい文字列を入力します。
有効な文字数は１０文字以下です。
ポートがオープンされて受信データ中に検出文字列を発見したらログを
停止します。
右のHEXコードを受信したら停止：右のテキストエリアに検出したいHEXコードをカンマ(,)で区切って入力
します。有効なコード数は１０バイト以下です。
ポートがオープンされて受信データ中に検出HEXコード列を発見したら
ログを停止します。

ログ開始／停止条件の初期値は
「ポートを開いたら開始」と「ポートを閉じたら停止」です。

ログ開始条件が成立するとログウィンドウにログを表示すると同時にログファイルも作成されます。
ファイルは本ソフトのインストールされているフォルダの下にフォルダ"dlog"が自動的に作成され、
そこに保存されます。
ファイル名は"DL_yymmdd_hhmmss.log"となります。（ yymmdd_hhmmss はファイル作成時の年月日時分秒です）

［４］使用上の注意

１：モニタデータ

ＣＮ－Ｔ１コネクタ、ＣＮ－Ｔ２コネクタの送信データと受信データを論理和（ＯＲ）したデータをモニタします。
二つの装置が同時に送信動作を行った場合は正しいデータがモニタされず、ＯＲされたデータがログウィンドウに表示されます。

２：モニタ表示

モニタしたデータは基本的にアスキー文字として表示されます。

アスキー文字として表示できないデータは１６進数で表示されます。
１６進数で表示される場合は '<16>' のように １６進数の値が '<' と '>' で囲まれます。

［PORT設定］における設定内容はインストールしたパソコンによってはサポートされていない場合があります。
サポートされていない項目を選択設定するとエラーが発生し、モニタソフトの実行が中断されます。